

吉岡町地球温暖化対策実行計画

概要版

第1章 計画策定の背景

(1) 地球温暖化の影響

- 地球温暖化問題は、その予想される影響の大きさや深刻さから見て、人類の生存基盤に関わる安全保障の問題と認識されており、最も重要な環境問題の一つとされています。今後、地球温暖化の進行に伴い、このような猛暑や豪雨のリスクは更に高まることが予測されています。

(2) 国内外の動向

国 外	- パリ協定における世界的な平均気温上昇を1.5℃に抑えるための努力への合意 - IPCC「1.5℃特別報告書」において、1.5℃の水準に抑えるためにCO2排出量を2050年頃に正味ゼロとする必要性への言及
国 内	- 我が国の2050年カーボンニュートラル宣言 - 我が国の2030年度の温室効果ガス削減目標2013年度比46%削減の公表
群 馬 県	「群馬県地球温暖化対策実行計画2021-2030」を策定し、再エネ導入の推進や産業事業者への支援等を施策の柱として、県全体の温室効果ガス排出量削減目標を2030年度に2013年度比で50%削減と設定
吉 岡 町	「吉岡町地球温暖化対策実行計画（事務事業編）」を策定し「2029年度に2018年度比10%削減（毎年度1%ずつ削減）」に向けた取り組みを実行 2023年12月に「ゼロカーボンシティ」の実現に向けて取り組むことを宣言

(3) 本町の特性

自然的特性

- 他周辺地域と比較し日照時間が長い
- 森林面積が約2割で、うち人工林が多い

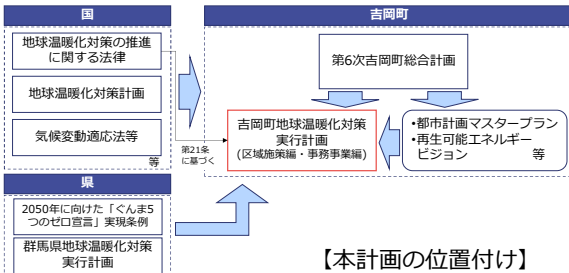
社会的・経済的特性

- 2030年にかけて人口が増加傾向
- 小売業や飲食業の割合が高い
- 1人あたりの自家用車保有率が高い

第2章 計画の基本的事項

(1) 計画の位置付け

- 本計画は「地球温暖化対策推進法」に基づき、策定される地方公共団体実行計画で、「第6次吉岡町総合計画」の基本構想・基本計画のもと、その他計画なども踏まえ、策定するもの。



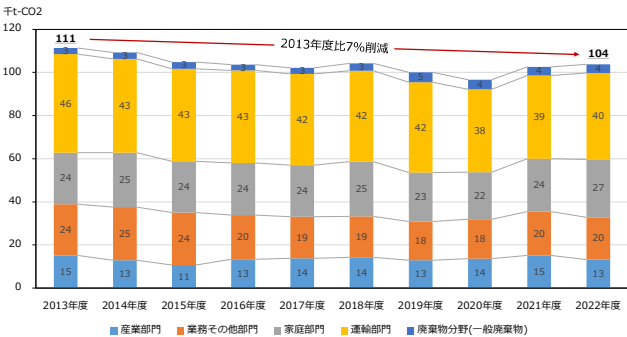
(2) 計画の期間

- 区域施策編：2026年度～2030年度（基準年度：2013年度、目標年度：2030年度）
- 事務事業編：2020年度～2030年度（基準年度：2018年度、目標年度：2030年度）

第3章 区域施策編

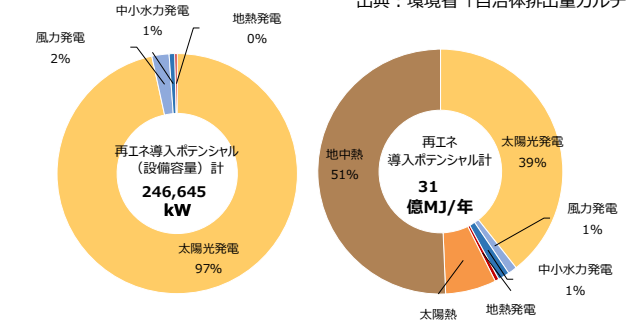
(1) 温室効果ガス排出量の推計

- 本町の温室効果ガス排出量は2022年度は2013年度比で7%削減されています。
- 過去10年を通して温室効果ガス排出量の部門構成の割合には大きな変化はなく、自動車の保有台数が多いことから、運輸部門が占める割合は大きく、運輸部門は全体の排出量の約4割を占めます。



【本町における温室効果ガス排出量（部門別）】

出典：環境省「自治体排出量カルテ」



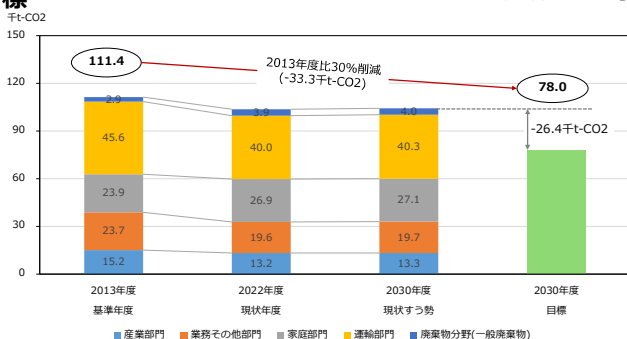
【本町における再生可能エネルギーのポテンシャル】

（左：電気のみ・設備容量、右：発電量・利用可能熱量）

出典：環境省「REPOS」

(3) 温室効果ガス排出量の削減目標

- 国や群馬県の温室効果ガス削減目標のほか、人口・世帯数の増により家庭部門／一般廃棄物の温室効果ガスの排出量が増加する傾向にある本町の特性も踏まえ、「吉岡町ゼロカーボンシティ宣言」の実現に向けた**本町の中期目標は2030年度に2013年度比で温室効果ガス排出量30%削減**とします。



【本町の区域施策編における温室効果ガス削減の中期目標】

(4) 温室効果ガス排出量の削減施策

「吉岡町ゼロカーボンシティ宣言」の実現に向けた中期目標達成（区域施策編）

基本施策1：再生可能エネルギー導入の促進

- 屋根置き太陽光発電システム導入の促進
- 営農型太陽光発電導入の検討
- 地中熱・太陽熱活用の促進

基本施策3：低炭素エネルギー網の整備

- 低炭素エネルギー網の整備

基本施策5：森林資源の整備と有効活用

- 森林吸収源対策の推進
- 地域材を使用した木育活動

基本施策2：環境に配慮した交通環境の構築

- 電動車の利用環境の整備
- 公共交通機関などの利用促進
- シェアサイクル事業の実施

基本施策4：循環型社会の形成

- ごみの減量と資源化の推進
- プラスチック製品などに係る資源循環の促進
- 食品ロス低減

基本施策6：教育等による環境啓発活動の推進

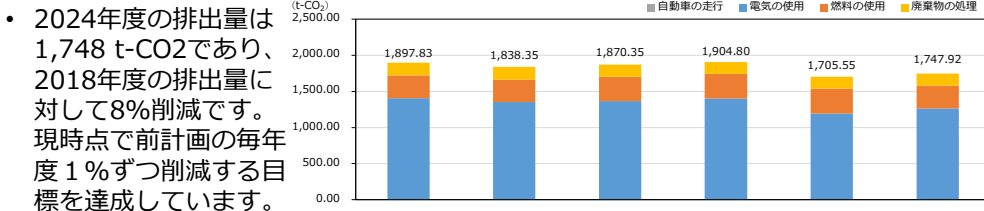
- 家庭向け環境教育の推進
- 事業者向け環境教育の推進
- イベント等における環境教育の推進

第4章 事務事業編

(1)これまでの温室効果ガス排出量と削減取組の状況

<前計画と排出状況>

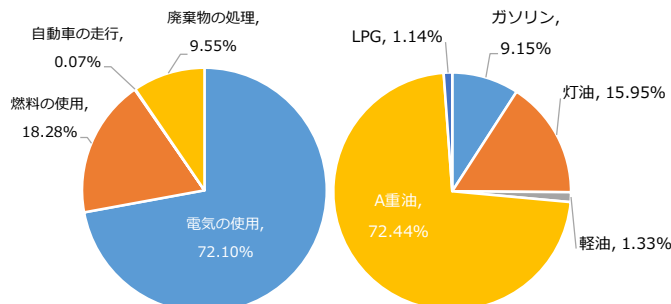
- 前計画では2018年度の排出量1,898 t-CO₂を基準として、2020年度から2029年度にかけて毎年度1%ずつ削減する目標でした。



【本町の事務・事業に伴う温室効果ガス総排出量の推移】

<排出の特徴>

- 使用用途別では電気の使用による排出量が約72%を占め、次いで燃料の使用が大きくなっています。
- 燃料の使用のうち、最も大きな割合を占めるのがA重油です。
- 本町の事務・事業に伴う排出量は電気の使用と燃料の使用(特にA重油)の状況に大きく影響を受けます。



【本町の事務・事業に伴う温室効果ガス排出量の割合(2024年度)】
(左：使用用途別、右：燃料の使用のうちエネルギー種別)

<排出削減の取組>

- これまで温室効果ガスの排出削減の取組として、再生可能エネルギーの導入などに力を入れてきました。

削減項目	主な取組内容
① 施設などにおけるエネルギーの使用の削減	勤務時間前後や昼休みの必要照明以外の消灯 など
② 公用車利用における環境負荷軽減	公用車の適正利用 など
③ グリーン購入対策	グリーン購入指針に基づいた製品調達への推進
④ ごみ排出抑制、リサイクルの推進	ごみの分別の徹底、減量化、資源化 など
⑤ 町有施設の建設、施設・設備の取組	・ 太陽光を活用した再生可能エネルギーの導入 ・ LED照明の導入 など
⑥ その他の取組	緑地の保全、町内の緑化推進 など

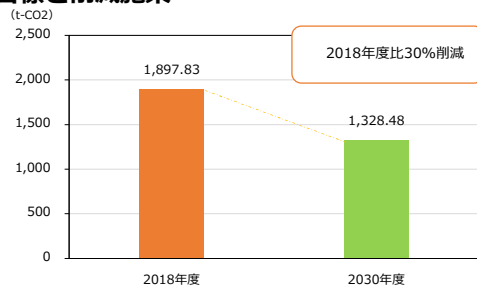


【町役場庁舎の太陽光発電設備】

(2) これからの温室効果ガス排出量の削減目標と削減施策

<削減目標>

- 国の温室効果ガス削減目標のほか、他市町村のように人口減少に伴う公共施設の統廃合による温室効果ガス排出量の減少が見込みにくい本町の実態を踏まえ、「吉岡町ゼロカーボンシティ宣言」の実現に向けた**中期目標を2030年度に2018年度比で30%削減(1年度あたり2.5%)**とします。



【本町の事務事業編における温室効果ガス削減の中期目標】

<目標達成に向けた取組>

「吉岡町ゼロカーボンシティ宣言」の実現に向けた中期目標達成(事務事業編)

1 再生可能エネルギーの活用

- ① 再生可能エネルギーの活用

3 省エネルギーの推進

- ① 設備更新と省エネルギー化
- ② 空調の適正使用と効率化
- ③ 電力使用量の削減

5 その他の取組

- ① 職員の意識向上と行動変容
- ② グリーン購入と契約の推進
- ③ ペーパーレス化と資源の有効活用
- ④ 水資源の有効活用
- ⑤ 公共施設の緑化推進

2 公用車の環境負荷の低減

- ① 公用車の利用抑制と適正利用
- ② 次世代自動車の導入とインフラ整備

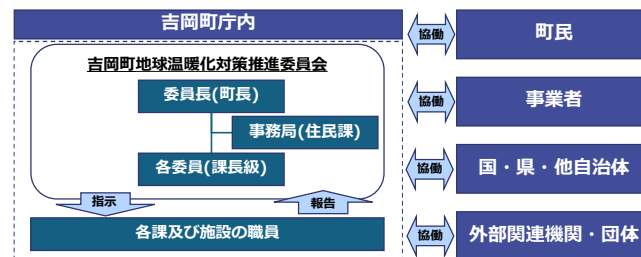
4 ごみ排出抑制、リサイクルの推進

- ① ごみの分別・減量化・資源化の徹底

第5章 計画の推進体制・進捗管理

(1) 計画の推進体制

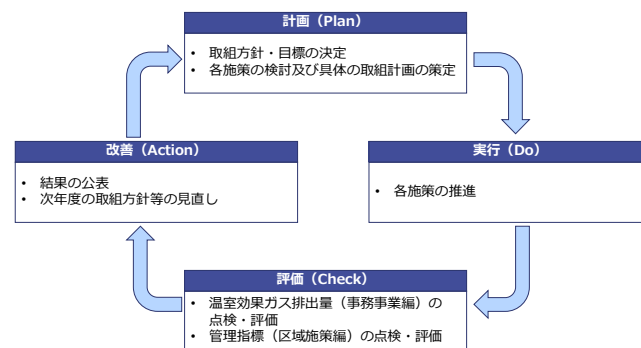
- 庁内の横断的連携を図る「吉岡町地球温暖化対策推進委員会」を設置し本計画を着実に推進していきます。
- 地球温暖化防止対策を総合的に実施するため、町民、事業者、国・県・他自治体、外部関連機関・団体との協働を進めます。



【本町における地球温暖化対策の推進体制】

(2) 計画の進捗管理

- 「地球温暖化対策実行計画PDCA (Plan・Do・Check・Action) サイクル」に基づき、年度毎に計画どおりに実施できたかを点検・評価し、併せて社会情勢や技術動向も見ながら、翌年度の取組に反映します。
- 毎年の取組に対するPDCAを繰り返すとともに、本計画の見直しに向けたPDCAも推進します。



【毎年度の地球温暖化対策実行計画 PDCAサイクル】

～吉岡町が目指す姿～

- 本町の自然的・社会的・経済的特性を活かし、また刻々と変化する社会・技術動向をみながら、「吉岡町ゼロカーボンシティ宣言」の実現に向けた各種温室効果ガス削減施策を町民、事業者、国・県・他自治体、外部関連機関・団体と協働し推進していきます。

【区域施策編における削減施策のイメージ】

